

議事録

1 概要

議題・会議名	令和5年度 第2回学校運営協議会
開催日時	令和5年度9月22日（金）午前1時15分から3時15分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室
出席者	外部委員4名 関係者1名 本校教職員11名 計16名
目的	学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深めるとともに、その権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校の運営への参画、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

2 議事

会議の内容	<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none">・外部委員4名、関係者1名、本校教職員11名、計16名で開会した。 <p>校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none">・校長より、挨拶が行われた。 <p>研修会報告</p> <ul style="list-style-type: none">・副校長より、9月20日に行われた令和5年度学校・家庭・地域の連携推進研修会の報告が行われた。・A委員からも補足説明が行われた。 <p>前期学校・学部自己評価の報告</p> <ul style="list-style-type: none">・教頭より、前期学校自己評価の報告が行われた。・各学部主事より、前期学部自己評価の報告が行われた。 <p>令和5年度防災教育推進のための連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none">・生活安全課長より、本校の防災教育、職員研修、安全計画書、危機管理マニュアルの説明が行われた。 <p>校内参観</p> <ul style="list-style-type: none">・避難所設置場所、防災倉庫、防災物品、マンホールトイレ等の確認を行った。 <p>グループワーク ～本校の防災教育、防災体制について～</p> <ul style="list-style-type: none">・安全計画書、危機管理マニュアル、校内参観について委員より質問や提言をいただきながら、3班に分かれてグループワークが行われた。各班で話し合われた内容は以下のとおりである。 <p>【1班】</p> <p>A委員</p> <ul style="list-style-type: none">・マニュアルが細かく記載されているので良い。・ハザードマップは信頼性があり、常に最新の情報に更新するとよい。学校、地域、通学路の安全性を確認して対策を考えていくこと、通学路で災害があった
-------	---

時、スクールバス乗車時は運転手に対応してくれるが、路線バスの場合は近くの避難所を教えてはくれず、降車させるようである。そうすると子どもたちは対応に困る。そのために、ヘルプマークを付けて学校や自宅住所を記載しておくが良い。

進路課長

- ・高等部は職場実習の際に、通勤時の災害対応についても考える必要がある。

A委員

- ・防災教育に関して、保護者の意識は低いため、学校で学習する必要がある。様々な状況を想定して、こんな時はどうするのかを知っておくようにしたい。
- ・避難行動要支援者マニュアルについて、障害のある人たちの名簿を作成することになっているが、機能していない。本人を支援してくれる人（家族以外）の氏名を記載するが、災害時に責任を負うことができないため、記載がない。名簿は、民生委員や自治会が保管することになっているが、個人情報管理することが目的のようになっていて、災害時に活用されていない。前回の台風による水害時に、入浴できる施設を知りたい、車が水没した等の際にボランティアセンターへ連絡したが、対応してくれなかった。いざという時には、地域力の必要性を感じる。
- ・本校の避難所開設について、運営するための準備をしておく。災害時に人が押し寄せるため、入口で振り分ける必要がある。そのために、必要な物品の把握、体育館にラインテープを貼り、通路や居場所のスペースを分かりやすくしておくなどの準備をしておく。
- ・障害のある人への配慮を地域住民に理解してもらう。マットを提供する、トイレの近くに待機する、個室を用意するなど、配慮の必要な方を優先的に対応する必要がある。災害時に理解してもらおうとしても難しいため、日頃から行っている地域交流の中で、障害者の実態や配慮が必要なことについて理解啓発をする。共生教育として、中学校や高等学校の生徒達にも障害者への理解をしてもらう。

校長

- ・本校では、様々な教育活動で地域の方と交流をしているが、交流の目的や地域の方への働き方について考えていきたい。

【2班】

D委員

- ・学校は地域の人にとって良い場所であるが、人が来た時にコントロールできなくなる。訓練をしっかりとやっておかないと、実際はグッチャグチャになることが一番怖い。
- ・シュミレーションする訓練（HUG訓練）があり、とても勉強になる。

生活安全課長

- ・HUG訓練は、まだその前段階と言うことで今年はやらなかった。
- ・人がたくさん来た時は、ここは福祉避難所なので、近くの小学校で一般の避難所に行ってもらおうことにしている。

D委員

- ・秋葉山公園も近いので、実際はそうなるかと断れない。
- ・訓練して一般避難民を学校だけではなくて、近くの住民の避難所とどう連携するかを考える。
- ・自社も避難所になっているが、帰れとは言えない。

D委員

- ・どんな人が来るか分からず、強い人も来れば、弱い人も来る。そこまで来て断れない。どうコントロールするか、制御するかを考える。
- ・HUG訓練を繰り返しやった方がよい。

生活安全課長

- ・まだHUG訓練をやるには至っておらず、その前段階として、自分が何をするのかを考えていた。

D委員

- ・出来ないことを分かって、何をすればいいかを考えるようにHUG訓練は最初にやった方がいい。混乱する状況を知って、会話が生まれる。(清水特支は環境がいいので) SNSでも拡散されて、絶対にここは狙われる。人が一気に来ることも想定しなければいけない。
- ・簡易トイレだけでは絶対に間に合わない。水害で使えないこともある。学校のトイレはペットボトルを持って使うことを想定しないといけない。

生活安全課長

- ・トイレについては、運動場の一部を掘ることも考えなければいけない。

D委員

- ・トイレはタンク式ではないのか。
- ・外部の人用とかも考えないといけない。
- ・平日昼間、休日夜、などいろいろなパターンを考えるのは大変なこと。

生活安全課長

- ・市の方に貸し出して、運営は市がやっていただけないのか。

D委員

- ・市はやってくれません。

E委員

- ・我々地区支部が生涯学習交流館に参集するので、そこから災害の度合いを見て各開設した避難所、例えば飯田小学校とか飯田東小学校にそれぞれの支部員が行って回す可能性はある。ただ、設備がそれだけあっても実際に災害が発生した時に誰が学校側で主導的にどうぞ使ってくださいと話が進んで行くのか、それとも我々の市の職員がここに設備があるから使いますねと僕らが主導的になるのかというのが正直、分からないところがある。
- ・以前、台風の際に飯田小学校を開放した時には、こちらが主導で体育館を開けて回したことがあった。あくまでも台風の予備的な避難で台風が来そうだ

から開けただけで実際に一番想定している大地震とか壊滅的な災害が起きた時にはやはりいろんな方のお力をお借りしないといけない。先生方のお力もお借りするという形になると思う。

- ・どれが使えて、何の目的で使えるのかを先生方の中で共有していただきたい。期限の切れたお水も保管されていたが、支部員のような全く知らない人が来て、水があるということで持っていったら、期限が切れていて本当は飲料に適していないものを飲ましてしまったら大変である。これが何用の何ですよと示してあるとよい。

D委員

- ・その点については、マジックで飲料可とか、来た人が分かるように表示をすると良い。(福島ボランティアグループの話から…) 災害ボランティアもやっているが、この人たちはすごい。何か災害があると全国どこでも飛んで行くグループである。大災害になったら自主運営になる。何が起こるか分からない中で、経験値があるこういう人たちを使うと良い。
- ・本当の災害時に、どんなことをやっているのかなどアップされている。最初、真ん中、終わり…と載っていたので勉強になる。

教務課長

- ・学校が断水の時でさえ、昨年度そうした経験をして3日間非常食を食べ過ぎましたが、こんな感じになるのかと生徒の様子もですけど、僕たち自身もこんな感じになるのかと気持ち的に落ちたところはある。

D委員

- ・でもその経験が一回あるから、次あったらイメージができる。

E委員

- ・実際に誰が運営できるか分からないので、先生方には物の場所等、どこに何があるかが分かっている欲しい。他の学校で、物の場所を聞くと、管理職は知っていて、他の先生方は知らないという現状がある。ここにあると耳では聞いていても、実際に見に行ったことがないこともある。

D委員

- ・MAPがあると誰でもすぐに見える。(防災計画書等を見ながら意見交換)

生活安全課長

- ・備品一覧はあるが、マップ上でどこにあるか分かると良い。

D委員

- ・知らない人からしたら管理棟1階にあるよって言っても、管理棟がどこか分からない。備蓄品の場所をマップに示すと良い。

E委員

- ・特に福祉避難所でいろんな障害の方とか一般の方が来たらお返しできない、体育館に入れるとか、対応せざるを得ない中で、高齢者や外国人の方も来ると考えると、文字ではなく絵でコミュニケーションをとることも必要。

D委員

- ・H u g 訓練でそうした内容はある。全然言葉が通じなさそうな外国の人が来た場合にどうするかという設定。

E委員

- ・昔、市役所で外国人の方をどう接客したらよいかという研修に出た時に、英語圏でなければもちろん英語は分からないから、とにかく絵で示して欲しい、税金はここ、福祉はここ、トイレはここ、一目で分かり易いMAP、視覚的に分かり易いものがいざという時には一番必要なのかなど。

D委員

- ・ピクトグラムは日本が発祥の国なので、絵を子どもたちに考えてもらって、災害の時には彼らにも活躍してもらうように、卒業して地域でも活躍できるようにしたい。
- ・守られるだけの立場だけではなく、自分から主体的に動ける力を学校は学ばせたい。学習の一環としてどこに何があるのか、先生が作るのではなく、子どもたちと一緒に考えられたらよい。自分たちで動いていれば、いざとなれば説明してくれる。ダンボールにこれは飲料不可です、等と書かせるだけでも意味がある。自分で書いていれば、これは飲めませんと説明できる。

E委員

- ・備蓄品は3階だけで、1階にはないのか。

生活安全課長

- ・基本は3階だけだが、義務教育棟の中学部は教室に置いている。

E委員

- ・去年の水害の時に、水が来ることを予想しておらず、備蓄品に限らず、1階に置いておいたものが水没してダメになるということがあった。台風が来るとなったら、事前に高い位置に移すとか、そういう作業が必要になる。先ほど学校は水没の被害は無かったと聞いたが、去年の台風時、生涯学習交流館は少し浸かった。この辺りの捨て川である巴川に行く小さな川があり、それが常に溢れてしまう。前回は線状降水帯でかなり溢れて、飯田生涯学習交流館の目の前がほぼ川になり、飯田東小学校の前も川のような状態で、交流館にも少し水が入った。学校は少し高いが、何をきっかけにどうなるかが分からない。1階には置いていないということで良かったが、水害は市の方も今まで地震を中心に考えていたので、今年から台風時の水害も含めた考え方になってきた。昨今の大雨、静岡も例外ではなく昨年に断水被害もあり、今までは割と台風が来ても南アルプスがあったので日本海側によけてくれたが、太平洋側からくると直にあたってしまうので、反省を踏まえるとやはり水害に対して台風が来るとなったら事前の意識を高めることが必要。例えば、マンホールトイレの設置場所に普段は駐車していても、災害が来そうだからマンホールトイレの前は車をどかしておくなどの対応ができる。自身の経験からも、ちょっとした意識で変わる所がある。

D委員

・私の会社の研究所は山の上であり、貯水槽があるため3日間は使える。貯水槽は、上にあると圧だけで行けますからね。下だとポンプを動かさないといけないから。

教務課長

・本校も高等部棟裏にタンクがあるにはある。

生活安全課長

・本校のタンクは生活用水には使える。電気をつながないといけない。

D委員

・学校には発電機がある。私たちも発電機を使って訓練をする。発電機は絶対に使える。

生活安全課長

・ガソリンは携行缶に少しだけ入っている。2分の1を切ったらガソリンを入れるようにしている。

D委員

・1年で使い切る等、期間を決めて使った方がよい。また、給電が大変だが、今は太陽光式のバッテリーもある。

【3班】

B委員

- ・防災士の観点で見ると、清水特支の災害に対する訓練は、説得力のある十分なものである。トイレについて心配だったが、十分なものであったと確認できた。清水特支の発災直後に対する訓練、マニュアルは問題がない。
- ・防災は発災から復旧までを考えるが、発災後数日は大丈夫であっても、10日後、20日後、30日後と長期化した際はどうか、トイレや水などのライフラインの確保はどうか、20日後、30日後をイメージした訓練も必要ではないか。

高等部主事

・夏休みの職員研修では、1週間後までの確認であった。

B委員

・本校は福祉避難所でもあるため、長期間の避難のことを考える必要がある。児童生徒のほとんどは自宅か、親戚の家等に行く。発災30日後は、直後の1割程度の避難者（自宅に戻れない、一人になり不安がある方）となる。避難所の動線や、想定されるトラブルを考えておく必要がある。

教頭

・夏休みの職員研修では、発災当日の日が暮れるまでのことをイメージすることも大変であった。20日後、30日後はどのように考えればよいか。

B 委員

- ・20 日後の避難者を考える。学校は、備蓄の飲水はなくなっているが、トイレは使えるという状況だと考えられる。

副校長

- ・学校は、避難している方のことも考えるが、優先は学校の再開なので、避難所と学校再開の兼ね合いも考えねばならない。

C 委員

- ・発災時の対応は、地域の自主防災が動く。避難者名簿の作成や物資の振り分けなどを行う。避難所は避難者に対して期限や退去は言えない。避難所の運営も学校再開についても、自主防災の方と相談しながら進める。

高等部主事

- ・事前に地域の自主防災の方々とつながっておく必要がある。

B 委員

- ・20 日後の想定を、現実にとりだけ近づけさせられるかがカギになる。

C 委員

- ・想定は災害の種類にもよる。例えば、断水し停電していても家が崩れていなければ家に戻ってもらい、避難所へ物資だけ取りに来てもらう。

高等部主事

- ・色々な状況を想定しておくことがよい。

B 委員

- ・防災について様々なことを知っていることは大事で、「知っていることは強い」しかし、全てを知ることは難しいので、「調べ方が分かる」「それに強い人（必要な情報をもっている人）を知っている」ということも大事である。

副校長

- ・B 委員が行った石巻の 20 日後の状況を教えてほしい。

B 委員

- ・避難所の様子は直接目にしておらず、また、防災士のおかれた環境は良かった。避難所を見た隊員の話では、とても大変な状況であった。特に、トイレはひどい状況だった。浄化槽が詰まり、災害用トイレもあふれかえていた。

C 委員

- ・昨年の 9 月 15 日の台風で、自身が住む三保地区で、断水を経験した。トイレが使えない状況になると、飲食を制限してトイレの回数を減らそうという発想になる。トイレが使えない状況は、生活そのものに悪影響を与え、悪循環を生むことを実感した。

教頭

- ・本校のマンホールトイレの機能はどうか。

B委員

- ・プールの水があって下水が使える、上下水道が使える状況であれば制限なく使える。本校の発災初期の防災レベルは高いため、20日後、30日後を考えたい。

C委員

- ・昼間の被災では、児童生徒と避難してくる人のことを同時に考える。

教頭

- ・避難所は、児童生徒が不在のイメージで考えてしまいがちである。

C委員

- ・児童生徒が家や親戚の家に行けるか否かは、交通や家屋の状況による。

B委員

- ・発災後の対応は、職員が100%いる状況で考えがちだが、30～40%程度の職員数で考えるとよい。職員の家族や家屋に何かあれば、学校に残れない。

副校長

- ・昨年9月15日の台風は休日であったが、消防はどのような対応であったか。

C委員

- ・まずは地域の自主防災が動き、その後、交代で給水などにあたった。

B委員

- ・消防は平時の配置で、その日の職員が対応に当たり、交代する時間に次の職員が合流し、200%の人員になったことで、いろいろなことが片付いていった。

高等部主事

- ・休日は、参集できる職員に限りがある。

副校長

- ・休日の想定でもシュミレーションする必要がある。

B委員

- ・本校は避難所を体育館としているが、レイアウトが不明である。西豊田小モデル（静岡短期大の江原先生協力）は、インクルーシブを考えたレイアウトである。実際の運用を想定した上で、本校としてのレイアウトを考えたい。避難所の設営や運営は、自主防災と一緒にを行うため、地域と一緒に考えておきたい。

C委員

- ・本校の体育館は広くなく、混乱が予想されるため、考えておきたい。

B 委員

- ・阪神淡路大震災の避難所（体育館）の一人当たりの広さは、90センチ×140センチで、通路などもなく、プライバシー等も守られない状況であった。

C 委員

- ・市の防災計画の表（防災情報の冊子より）では、本校の体育館は131人をの収容となっている。一人当たり3平米で通路などもなくぎっしりと場所をとった場合の人数である。飯田地区全体で、避難所は飯田小、飯田東小、飯田中、北部交流センター、飯田生涯学習交流館と本校がある。エリアごとの避難先が決まっていると良い。本校は秋葉山公園もあるため、多くの人に来ることも予想される。清水東高校もあるので、そちらとの連携も必要ではないか。

地域連携課長

- ・現在、飯田地区在住であるが、避難場所が明確に決まっているわけではない。まず自治会館、その後は近くの学校へ避難するというイメージはもっている。

B 委員

- ・避難所には、人だけでなく、荷物、犬などのペットも入る。

教頭

- ・家屋に危険がない場合、避難所へは物資を取りに来ることになる。

B 委員

- ・PTA学習会でも伝えたが、在宅避難は全国的に推奨されている。難を避けるための場所が避難所であるため、被災した場合は、①在宅避難、②縁故避難、③避難所、という順で考える。

教頭

- ・長引いた場合、在宅では、物資に困るのではないか。

B 委員

- ・避難所で受付をし、避難者名簿に人数や避難先を記載する。避難者名簿の人数によって物資は供給される。物資は避難所でもらうことができる。

教頭

- ・避難所名簿の記載＝物資をもらえる、ということも周知する必要がある。

【次回の予定】

予定日時	令和5年11月16日（木）午前9時15分から11時15分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室
予定テーマ	地域とのかかわりについて